

2 10大費目指数の動き

各費目の動きを前年比で見ると、食料は外食の値上がりなどにより2.1%上昇、住居は設備修繕・維持の値上がりなどにより0.7%の上昇、家具・家事用品は家庭用耐久財の値上がりなどにより2.6%の上昇、被服及び履物はシャツ・セーター・下着類の値上がりなどにより3.0%の上昇、保健医療は医薬品・健康保持用摂取品の値上がりなどにより0.4%上昇した。一方、光熱・水道は電気代の値下がりなどにより-0.8%の下落、交通・通信は自動車等関係費の値下がりなどにより-0.5%の下落、教育は授業料等の値下がりなどにより-9.7%下落、教養娯楽は教養娯楽サービスの値下がりなどにより-0.4%の下落、諸雑費は他の諸雑費の値下がりにより-3.8%下落した。

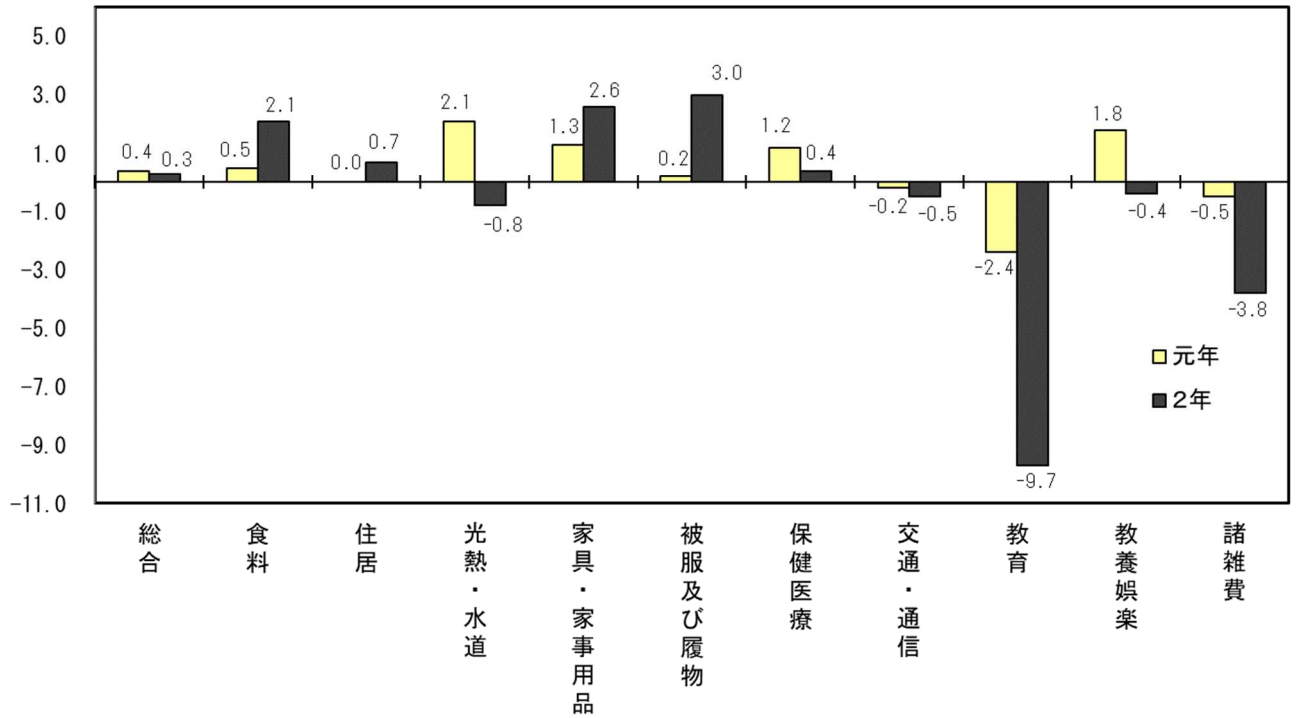
10第費目指数	前年比(%)		寄与度	
	元年	2年	元年	2年
総合	0.4	0.3		
食料	0.5	2.1	0.14	0.57
住居	0.0	0.7	0.00	0.12
光熱・水道	2.1	-0.8	0.14	-0.05
家具・家事用品	1.3	2.6	0.05	0.09
被服及び履物	0.2	3.0	0.01	0.12
保健医療	1.2	0.4	0.05	0.02
交通・通信	-0.2	-0.5	-0.04	-0.08
教育	-2.4	-9.7	-0.06	-0.23
教養娯楽	1.8	-0.4	0.17	-0.04
諸雑費	-0.5	-3.8	-0.03	-0.25

※寄与度について

寄与度とは、ある品目又は類の指数の変動が、総合指数の変化率にどの程度寄与したかを示したものであり、計算式は次のとおりである。

$$\text{寄与度} = \frac{(\text{当期の指数} - \text{前期の指数}) \times \frac{\text{当該項目のウエイト}}{\text{総合のウエイト}}}{\text{前期の総合指数}} \times 100$$

費目別前年比



費目別寄与度

